

福島県立修明高等学校校歌

作詞 久保田 範夫

作曲 濱 崎 晋

一 ここ県南の 空青く
久慈の流れは 未来へと
遥かに続く 夢の一筋
共につかもう 輝く夢を
学びの苑に 集える朋友と
あゝ 修明 我らが母校

二 萌える緑の 城跡に
歴史を偲び 薫る風
新たな世紀を 翔る若人
共に磨こう 叡智と技を
学びの苑は 進取と自律
あゝ 修明 我らが母校



<作詞コンセプト>

○ 久慈川沿いに広がる棚倉町の豊かな自然のもと、棚倉、東白川農商両校の歴史と伝統を継承しつつ、学びの苑・修明高校の生徒たちが、自らを律しながら共に学び、共に夢をつかみ、新たな伝統を築いて新世紀に飛翔してほしい、という願いを込めて詞を練り上げた。

○ 歌詞の補足（これは、あくまで作詞者の思いであり、それを基本として、生徒諸君は自分なりの解釈をし、自分の思いを込めて歌ってほしいと考えます。）

一 ここ県南の棚倉の空はどこまでも青く澄んで、久慈川の清らかな流れは、私たちが将来実現するはずの夢に向かって遥かに続いていく一本の道のようにあり、そこには燦めく光があふれている。

輝く私たちの夢を共につかもうよ、ここ学びの苑に集まり出会った友と一緒に。
私たちの愛する母校、修明高校で。

二 木々の若芽が萌え出て伸び、緑に染まる棚倉城の城跡に^{*}佇み、17世紀に^{さかのぼ}る築城や棚倉町の歴史に思いを馳^{はせ}ると、新緑に吹きわたる風が薫ってくる。

その薫風に乗って、新世紀の空を翔るように活躍する若者、それは私たち。

空高く飛翔するため、単なる知識ではない本質を見抜く知性と技術を共に磨こうよ。

ここ学びの苑は、意欲的に新しい事をする気概を持ち、自ら立てた規範・ルールに従い、責任を持って行動する生徒がいる学舎。

それこそが、私たちの母校、修明高校。

^{*} 棚倉城は、亀ヶ城、^{ちかつ}近津城、^{あらつち}新土城とも呼ばれる。

- 校名「修明」の由来
「修」は、人格をおさめととのえること、学問・技術を身に付けること、
「明」は、本校の将来が前途洋々、明るい希望に満ちあふれていること
- 普通科系（文理科）と実業系学科（農業科、商業科）を併せ持つこと、
- 修明高校の校訓「自律、勤勉、敬愛」、
- 愛校心が自ずと生まれるような、覚えやすい歌詞。